

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 杉野 さち子

2月17日(土) 2階C室 9:00~9:40(話し合い11:00~11:45)

1 単元名 しぜん・音けんきゅうじょ

2 単元について

4月から、「みがく」の時間に、生活の中で見いだした問いをもとに、一人ひとりが探究する学びを積み重ねてきた。中でも、自然科学にかかわることを「しぜん」として位置づけ、アオムシの飼育、風のおもちゃ、金木犀の香水、かげの研究など、子どもとともに学びをつくってきた。その中で、子どもたちは、「比べて調べる」「少しずつ変えて調べる」という理科の見方・考え方につながる学び方を獲得してきた。個の探究を楽しむ一方で、友だちの探究にも目を向け、学び合う楽しさも感じてほしい。

視点1「一人ひとりが見通しをもち探究し続ける学び」では、学びの全体像についての計画を共有し、個がとことん探究できる時間を保障する。子どもたちは、音について自分の興味をもとに様々なテーマで調べ、達成感が得られたとき、対話を求めるだろう。2年生なりに見通しをもった個の探究により、他者を必要とし、自分の学びを伝えたり友だちの学びから学んだりするよさを感じる姿を目指す。

視点2「深い理解を図る教材化」では、生活から立ち上がる教材化を行う。導入では、2学期のプロジェクトで行った楽器作りをきっかけに、音をテーマに対話を行う。様々な問いが生まれると考えるが、その中で「しぜん」で調べていけそうなこと、方法、何を使って調べるかを考える。経験を生かしながら、理科につながる学び方を重ねることで、音の高さや音色を変えられることへの気づきを深めたい。

視点3「相互評価と自己評価を促す教師のかかわり」では、個と全体をつなぐ評価活動を行う。活動中には、興味が近い、方法が似ている子ども同士がかかわる場を設けたり、全体の対話では、困っていることも共有してアイデアを出し合う場を設けたりする。活動中の様子や、1年生から続けている「見つけるしらべるカード」でのふり返りを教師が記録し、次の評価活動の計画を立てる。個の音の研究が、他者の研究により深められ、全体の「音けんきゅうじょ」の成果となっていくようにかかわる。

3 学習活動計画(10時間目/全12時間)

- 第1次 音ってなあに …2時間
- 第2次 音のけんきゅう …本時8/8時間
- 第3次 音を楽しもう …2時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・音について研究してきた成果を発表し合う活動を通して、友だちの研究から気づきを得て、自分の活動にいかそうとする。

(2) 予想される本時の展開 (枠組みの中のみポイントを下げてもよい)

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 目標を共有する。	・子どもとこの時間の目標を確認する。
2 音の研究について聴き合う。 ・実際に音を出したり、成果物を見せたりしながら、説明する。 ・感想やアイデアを伝え合う。	・互いの研究が分かるように場を設定する。 ・違いや共通点から研究の価値を共有する。
3 聴き合ったことをいかして研究を進める	・個々の目標と活動がつながっているか共に考える。 ・目標が達成されたか尋ねる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

低学年における、自然科学に対する学びの内容や学び方の可能性について。